

Ⅱ-6 生け垣調査

1. 生け垣の現況

	(H26)		(R5)
○生け垣の総延長	18,402m	→	18,356m
○生け垣の箇所数	469箇所	→	455箇所

住区ごとの生け垣箇所数と総延長、前回調査（2014（平成26）年度）との経年変化を表Ⅱ-6-1に、生け垣の分布図を図Ⅱ-6-1にそれぞれ示す。なお、生け垣については、原則として接道部延長が20m以上のものが対象である。区全体で455箇所、総延長は18,356mとなった。前回調査と比較して、箇所数で14箇所、延長で46mの減少となった。中でも東根住区は箇所数で22箇所、延長で666mと大きく減少となっている。一方、菅刈住区は箇所数で13箇所、延長で549mと大きく増加している。

表Ⅱ-6-1 生け垣の住区別経年変化

番号	住区名	平成26年度調査		令和5年度調査		増減	
		箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)
1	駒場住区	21	897	20	861	-1	-36
2	菅刈住区	7	406	20	955	13	549
3	東山住区	15	836	22	1,109	7	273
4	烏森住区	9	353	8	298	-1	-55
5	中目黒住区	11	362	9	274	-2	-88
6	田道住区	15	677	13	487	-2	-190
7	下目黒住区	10	503	12	810	2	307
8	不動住区	21	1,117	24	1,282	3	165
9	上目黒住区	17	609	13	435	-4	-174
10	油面住区	20	656	17	579	-3	-77
11	五本木住区	23	827	16	663	-7	-164
12	鷹番住区	35	1,625	38	1,716	3	91
13	月光原住区	24	943	26	1,080	2	137
14	向原住区	9	282	9	276	0	-6
15	碑住区	26	1,342	27	1,443	1	101
16	原町住区	28	998	33	1,242	5	244
17	大岡山東住区	30	1,045	29	1,060	-1	15
18	大岡山西住区	19	693	20	654	1	-39
19	中根住区	22	664	21	650	-1	-14
20	自由が丘住区	31	1,212	30	985	-1	-227
21	八雲住区	22	652	16	460	-6	-192
22	東根住区	54	1,703	32	1,037	-22	-666
区全体		469	18,402	455	18,356	-14	-46

生け垣の樹種と箇所数を表Ⅱ-6-2に示す。生け垣の樹種としては、カナメモチ、イヌツゲ、ヒイラギモクセイ、キンモクセイ、カイヅカイブキなどが主である。

生け垣の多くは異なる樹種を用いた混植が多く、また、高木を配置したものや最下層を植込みとして仕上げたものなど、多様な形態を示す。

表Ⅱ-6-2 生け垣の主な樹種

樹種	H26	R5	増減
	箇所数	箇所数	箇所数
カナメモチ	126	169	43
イヌツゲ	50	57	7
ヒイラギモクセイ	48	48	0
キンモクセイ	38	47	9
カイヅカイブキ	46	44	-2
ツバキ	38	32	-6
ネズミモチ	37	31	-6
サザンカ	24	20	-4
レッドロビン	6	16	10
トキワマンサク	4	13	9
その他	193	264	71
区全体	610	741	131

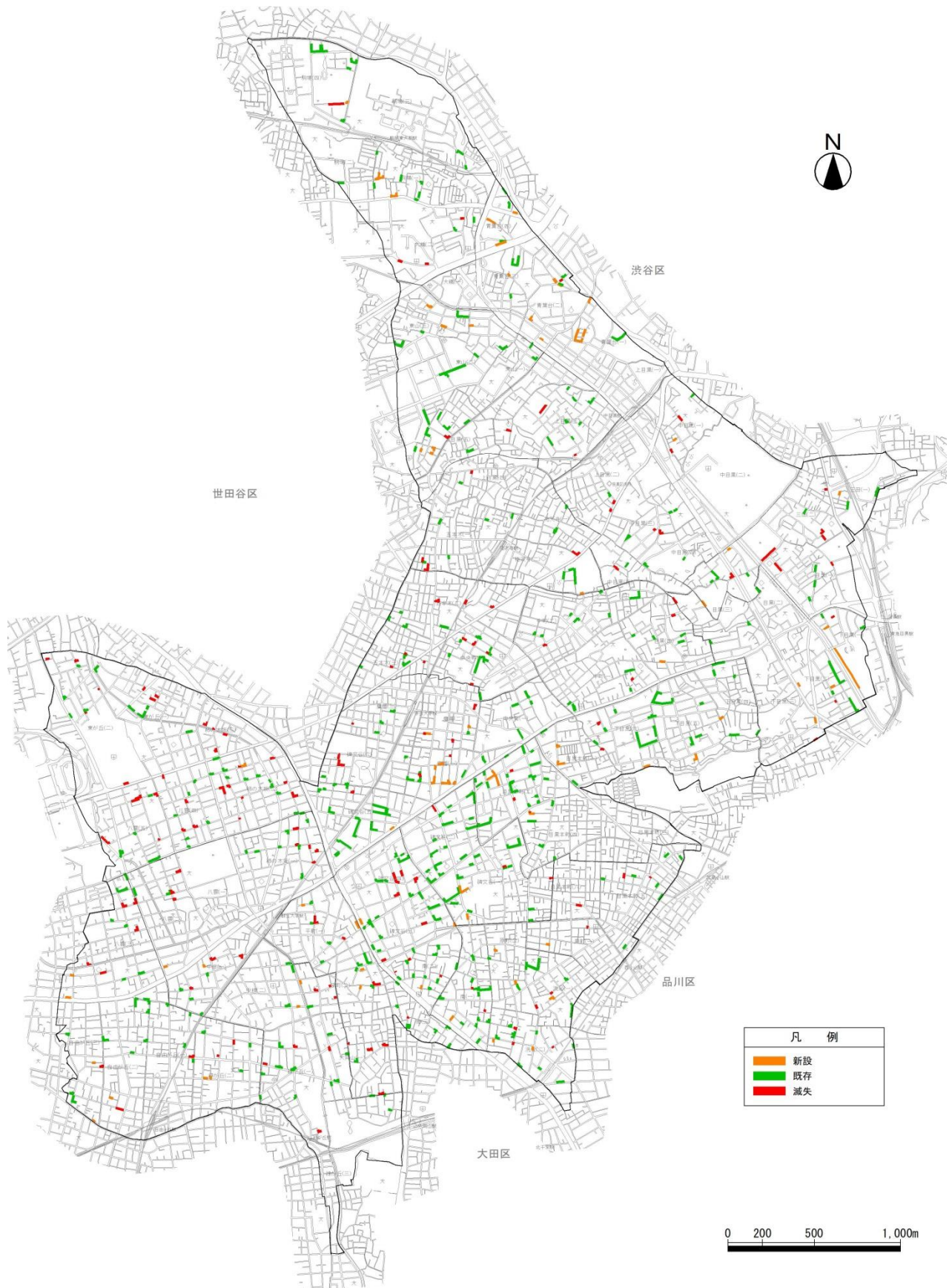
注) 混植があるので、箇所数合計は、生け垣箇所数と一致しない。

2. 生け垣の変化要因

前回調査から区全体の箇所数、総延長のいずれも若干の減少となっているが、その要因としては、建物の建て替えによる撤去や20m以下の生け垣への細分化などが考えられる。ちなみに今回の調査で接道部延長20m以下の生け垣を150箇所(2,444m)確認している。接道部緑化の助成実績を表Ⅱ-6-3に示す。

表Ⅱ-6-3 接道部緑化の助成実績

みどりのまちなみ助成実績	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	合計
接道部緑化	箇所	21	20	25	22	20	26	20	14	178
	延長(m)	152	194	177	199	171	254	165	61	1,436



図Ⅱ-6-1 生け垣分布図

3. 生け垣の事例

生け垣について、幾つか特徴的な事例を表Ⅱ-6-4に掲載する。

表Ⅱ-6-4 生け垣の事例

新設		<p>事例1. 共同住宅</p> <p>1階部分と道路の境に目隠しフェンスではなく生垣を採用しプライバシーとみどりのまちなみづくりに配慮している。</p>
新設		<p>事例2. 個人住宅</p> <p>建物と一体化した植栽帯を設け、立体的な生垣。保存生垣にも指定されている。</p>
既存		<p>事例3. 公共施設(めぐろ区民キャンパス)</p> <p>交差点の緑視に配慮して、公共施設と道路境に設けられた生け垣。 樹種はカナメモチ。</p>

Ⅱ-7 壁面緑化調査

1. 壁面緑化の現況

	(H26)		(R5)
○壁面緑化の面積	604 m ²	→	3,014 m ²
○壁面緑化の箇所数	18 箇所	→	40 箇所

区内全域の一般住宅、共同住宅、民間施設を対象に、壁面緑化を調査した。屋上緑化と比べ、壁面緑化は街の景観の向上や*1緑視効果が高いという特徴がある。

今回調査と前回調査（2014（平成26）年度）における住区別の箇所および面積の経年変化を表Ⅱ-7-1に示す。前回調査から箇所数で22箇所、面積で2,410 m²の増加があった。

表Ⅱ-7-1 壁面緑化の経年変化

番号	住区名	平成26年度調査		令和5年度調査		増減	
		箇所数	壁面緑化面積 (m ²)	箇所数	壁面緑化面積 (m ²)	箇所数	壁面緑化面積 (m ²)
1	駒場住区	0	0	2	120	2	120
2	菅刈住区	1	40	6	407	5	367
3	東山住区	0	0	1	30	1	30
4	烏森住区	1	28	0	0	-1	-28
5	中目黒住区	1	9	3	49	2	40
6	田道住区	0	0	1	15	1	15
7	下目黒住区	3	123	2	82	-1	-41
8	不動住区	1	33	2	53	1	20
9	上目黒住区	2	90	2	216	0	126
10	油面住区	2	10	2	40	0	30
11	五本木住区	0	0	1	12	1	12
12	鷹番住区	0	0	0	0	0	0
13	月光原住区	0	0	0	0	0	0
14	向原住区	0	0	2	530	2	530
15	碑住区	0	0	2	75	2	75
16	原町住区	0	0	0	0	0	0
17	大岡山東住区	0	0	0	0	0	0
18	大岡山西住区	2	62	4	180	2	118
19	中根住区	0	0	1	10	1	10
20	自由が丘住区	3	123	2	490	-1	367
21	八雲住区	1	11	3	270	2	259
22	東根住区	1	75	4	435	3	360
	区全体	18	604	40	3014	22	2410

*1 緑視：資料編 P.166 用語集(15)参照

2. 壁面緑化の変化要因

前回調査から箇所数、面積ともに増加したものの、壁面緑化については、屋上緑化と比べるとまだ社会的関心が低いうえ、技術的課題、維持・管理の問題（壁面への影響、植栽基盤や適切な植物の開発、管理方法、コスト面等）もある。

また、増加には助成による効果もあるが、2014（平成26）年から2022（令和4）年度までの壁面緑化の助成実績は3件と、ほとんど実績が進んでいない。（表Ⅱ-7-2）

表Ⅱ-7-2 壁面緑化の助成実績

みどりのまちなみ助成実績		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	合計
壁面緑化	箇所	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3
	面積(m ²)	0	0	0	11	0	0	37	7	0	55

3. 壁面緑化の事例

区内の良好な壁面緑化について、公共施設と民間施設の2事例を紹介する。（表Ⅱ-7-3）

表Ⅱ-7-3 壁面緑化の事例

	<p>公共施設（大橋ジャンクション）</p> <p>大橋ジャンクションの壁面に緑化をしている。ジャンクションの壁面の圧迫感を軽減し、近くの日黒川と景観がマッチしている。</p>
	<p>個人住宅</p> <p>形状・素材を工夫しポットの交換が可能でメンテナンスの作業を容易にした。チョウなどのいきものもやってくる。</p>